

科目名	国文学講読Ⅰ			担当教員	木戸浦 豊和	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2JLI405
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	(1) テーマ：近代小説入門――夏目漱石「坊っちゃん」精読 (2) 到達目標： ①小説の言葉・表現・イメージに着目し、作品を精読できる。 ②小説の《技法》を分析し、独創的な文学表現を読み解くことができる。 ③根拠や理由を明確にして、自分の解釈や批評をまとめ、発表することができる。 ④自分の考えを分かりやすく他者に伝え、他者の意見を的確に受けとめることで、対話を通して思考を深めることができる。					
授業の概要	(1) 受講生の口頭発表と質疑応答の授業である。近代文学の読解に関心のある学生を対象とする。 (2) 「国文学概論Ⅰ」と「国文学概論Ⅱ」の単位を取得済みであることを履修の条件とする。 (3) 夏目漱石（1867～1916）の初期代表作「坊っちゃん」（1906）を精読する。毎回、発表担当者が2,000～3,000字程度の発表を行い、その内容をもとに質疑応答を行う。これにより文学作品を正確に理解するために必要な読解力を養う。 【デジタル技術利用 該当番号：①】					

授業計画	
第1回	ガイダンス 夏目漱石および「坊っちゃん」について
第2回	「坊っちゃん」第一章を読む ※「坊っちゃん」第一章に関する課題提出
第3回	発表資料のまとめ方・発表の仕方について ※発表順決定
第4回	「坊っちゃん」全体を読む ※「坊っちゃん」全体に関する課題提出
第5回	発表①：「坊っちゃん」第二章
第6回	発表②：「坊っちゃん」第三章
第7回	発表③：「坊っちゃん」第四章
第8回	発表④：「坊っちゃん」第五章
第9回	発表⑤：「坊っちゃん」第六章
第10回	発表⑥：「坊っちゃん」第七章
第11回	発表⑦：「坊っちゃん」第八章
第12回	発表⑧：「坊っちゃん」第九章
第13回	発表⑨：「坊っちゃん」第十章
第14回	発表⑩：「坊っちゃん」第十一章
第15回	発表⑪：「坊っちゃん」まとめ

事前学修	2時間	作品を必ず読み、疑問点等をまとめる。
事後学修	2時間	作品を再読し、自分の意見や分析・解釈を整理する。
フィードバックの方法	発表等に対し、コメントする。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	定期試験は実施しない。
上記以外の試験・平常点評価		60%	発表またはレポートの内容では、本文に即して読み取り、根拠を示して解釈しているかどうかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価		40%	ディスカッションでの発言内容・態度、課題の提出状況・内容を評価する。
補足事項	（１）この授業は、選択科目であるため、自分の必要に応じて受講すること。 （２）「国文学概論Ⅰ」と「国文学概論Ⅱ」の単位を取得済みであることを履修の条件とする。 （３）文学の授業でもっとも大切なことは、自分で作品を読み、自分で作品を分析し、解釈することである。必ず自分で作品を読み、自分の言葉で事前課題やレポート・発表資料をまとめること。 （４）事前課題や発表資料などについて、生成AIによって出力した文章や、ネット上の文章などを「コピペ」した場合には、失格とする。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
坊っちゃん	夏目漱石	岩波文庫	9784003101032	—
参考資料	授業中に紹介する。			

科目名	国文学講読Ⅱ			担当教員	大石 真由香	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場での経験を活かし、国語学的な知識を踏まえつつ古典文学作品を読解し、人に伝える力を養う講義を行う。					
到達目標及びテーマ	〈テーマ〉『万葉集』所収作品を国語学的な知見を踏まえつつ精読し、それを授業に活かす方法について考える。 〈到達目標〉 ○『万葉集』や「万葉がな」に関する知識を深め、その成立や作品の背景を踏まえて鑑賞することができる。 ○古典文法・語彙の知識に基づいて、『万葉集』を中心とする日本古典文学作品を自ら読解することができる。 ○『万葉集』をはじめとする日本古典文学作品の受容史・研究史を理解し、それらを踏まえた解釈を人に伝えることができる。					
授業の概要	本講義では、『万葉集』に関する文学史、「万葉がな」の読解方法等について講義をした後、4500首を越える万葉歌の中から中学校国語教科書に取り上げられている作品を、国語学的な知見や受容史・研究史を踏まえつつ精読する。また、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションの活動を取り入れ、専門的知識を授業にどう活かすかについて議論する。こうして、『万葉集』を中心とする日本古典文学作品を読むために必要な専門的知識を身につけ、さらに授業者としての視点を獲得することを目指す。 【デジタル技術利用：①、④、⑥】					

授業計画	
第1回	授業ガイダンス
第2回	【講義】『万葉集』を学ぶための基礎知識
第3回	【講義】漢字だけで書かれた『万葉集』を「よむ」ということ
第4回	【講義】柿本人麻呂を読む①―「ひむがしの」の歌を単独で読む―
第5回	【講義】柿本人麻呂を読む②―「ひむがしの」の歌を歌群で読む―
第6回	【個人探究】定訓のない歌を教科書に載せることについて
第7回	【プレゼンテーション】『万葉集』の歌人・額田王 【講義】額田王を読む
第8回	【プレゼンテーション】『万葉集』の歌人・山部赤人 【講義】山部赤人を読む
第9回	【ディスカッション】『万葉集』と『百人一首』に異同のある歌をどう教えるか？
第10回	【ディベート】定訓のない歌を教科書に載せることについて
第11回	【プレゼンテーション】『万葉集』の歌人・山上憶良 【講義】山上憶良を読む
第12回	【プレゼンテーション】『万葉集』の歌人・大伴家持 【講義】大伴家持を読む
第13回	【プレゼンテーション】『万葉集』の東歌・防人歌 【講義】東歌・防人歌を読む
第14回	【講義】『万葉集』と本歌取り―『万葉集』を本歌取りした歌を読む―
第15回	【ディスカッション】出口の言語活動

事前学修		ディベート、ディスカッションにあたっては、事前に提示する資料を読み、議論に参加できるよう十分な準備を行った上で授業に参加してください。 また、プレゼンテーション担当者は資料作成し、授業中に提示する日時までに提出してください。
事後学修		各【講義】回に、授業で提示した解釈に対する意見を求める論述課題を課します。必ず提出期限を守って提出してください。 また、これら論述課題に取り組む際には授業中に提示した資料だけでなく、関連書籍を読むなどして自らの考えを深めてください。

フィードバックの方法	授業内に適宜行う小テストはユニバを利用し、即時採点して受講生が授業の理解度を確認できるようにする。 第6回【個人探究】の際に課す中間レポートの内容をまとめ、第10回【ディベート】の際の資料として受講生に配付する。 論述課題について、次回以降の授業で代表的なものを取り上げて適宜コメントする。
------------	---

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	30%	第 6 回授業時と学期末に『万葉集』に関するレポートを課す。
上記以外の試験・平常点評価	30%	ディベート、ディスカッション、プレゼンテーションへの参加、発表内容、発表資料
上記以外の試験・平常点評価	30%	各【講義】回に課す論述課題
上記以外の試験・平常点評価	10%	授業内に適宜実施する小テスト
補足事項	この講義を受講するためには、「国文学史Ⅰ」を履修済みか、少なくとも履修中であることが必須です。 未履修であることが判明した場合、出席日数や提出物等の点数に関わらず「失格」となります。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業中に配付するプリント	なし	なし	なし	なし
参考資料	・秋山虔・三好行雄編著『原色新日本文学史〔増補版〕』（文英堂　＊「国文学史Ⅰ」で使用したテキスト） ・古語辞典（電子辞書可）、古典文法書（高校生の頃に使っていたものでよい） ・中学校国語教科書、小学校国語教科書、中学校学習指導要領（国語）、小学校学習指導要領（国語）			